

2013～2014年度

大磯ロータリークラブ会報

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

第2274回 例会

平成26年4月3日 (雨) No.34

■司会：原 千明

■点鐘：百瀬 恵美子

■合唱：君が代・奉仕の理想

◇プログラム・4月10日：例会後お花見（運動公園）・4月17日：ゲストスピーカー ・4月20日：地区協議会

◇出席報告

例会	会員数	出席数	出席率	メークアップ	修正出席率
2274回	18(15)	10	66.67%	—	—
2272回	18(15)	10	66.67%	1	73.33%

◇欠席者(5名) 小林、宮澤、石山、原卓太田さん

◇メークアップ(1名) 宮澤さん

◇ひとこと

笹尾政儀さん

米国のサマータイム：米国では四月の第一日曜日からサマータイム-夏時間が始まり十月の最期の日曜日までの七ヶ月間は時計の針を一時間進め、米国民は皆んな早起きを強いられる。四月と言っても訪れの遅いニューヨークは公園も郊外も枯れ木ばかりの冬景色です。

アメリカ人達は日照を無駄にしないと言った意味で春から時間を一時間先に進め、その分だけ早く起きて夕方は明るく電気等の節約になったり犯罪や交通事故も防止され、また明るいうちに帰宅すればテニスやバーベキューも楽しめるというが、しかし農村では朝が暗くて畑仕事がしにくい、家畜の体調が狂って困ると言った苦情もあるという。

◇会長報告

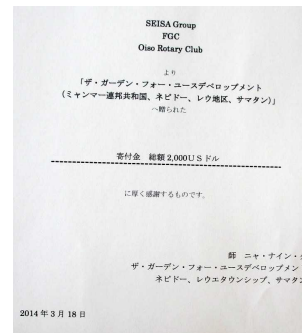
百瀬 恵美子会長代理

桜が満開ですが今日の雨で散りますかね！一気に春ですね。

1. 宮澤さんより礼状：クラブから世界こども財団に寄付した20万円をミャンマー連邦共和国へ贈られた内容です。



ミャンマー政府から2,000ドルをThe Garden for Youth Development に寄付して頂いたとの感謝状が来ています。



2. 3月20日に大磯中学校2年生132人が我々が寄付したミニアンプラスを使って救急救命訓練をしました。報告書回覧します。

3. 例回終了後理事会を開きます。

◇幹事報告

守屋 紀忠幹事

特になし。

4月は交通安全月間ですので特に注意して運転して下さい。

オクトンのカタログが来ましたのでご覧下さい。



◇委員会報告

☆新宅 文雄さん：

IM実行委員長としていろいろ勉強しましたが、IMに一生懸命やって下さった方にはお礼をしたいなあと思いました。他のクラブから大磯の事務局員の手塚さんは



よくやって下さったと桐本ガバナー補佐、柏手ガバナー補佐幹事から注目を受けていまして、クラブとしても面目を得て有り難いと思っています。(拍手)それで今日は僅かですがお礼をさし上げたいと思います。

☆IM司会の原千明さん：手塚さんはよくやって下さった。

☆スマイルボックス

井上 浩吉さん

・百瀬 恵美子さん

：笹尾さん卓話たのしみです。

・守屋 紀忠さん：

笹尾さん 卓話よろしくお願ひします。

・河本 親秀さん：

笹尾さん 卓話卓話楽しみです。

・笹尾 政儀さん：先日は私の誕生祝を頂戴し有難うございます。

・井上 浩吉さん：百瀬会長いつもごちそう様です。笹尾さん卓話よろしくお願ひします。

・新宅 文雄さん：雨の桜も またよし。笹尾さん卓話よろしくお願ひします。



◇ 卓 話

◆◆◆源平の一コマ◆◆◆

笹尾 政儀さん



本日の話はその昔武家政権の夢を描いたもので、昔の話ですから多少真実と異なる処もあるかも知れませんが皆様も良くご存じの源平の一コマを…。

資料配布：部門源氏略系図

私達には理解しにくいのだが、多くの妻を持つことが普通の時代があった。軍事を担当した下級貴族の多くは、勢力拡大のため中央の有力者や地方豪族の娘との間に婚姻関係を結んでいった。

源頼朝の父義朝もそうした一人である。頼朝の母は熱田神宮大宮司をつとめた藤原季範の娘で、又義経を生んだのは近衛天皇の中宮藤原呈子(九条院)の下で下働きをしていた常磐だった。

又長男義平の母は相模の豪族・三浦義明の娘で、二男・朝長の母は相模の波多野氏の娘だった。

季範の娘は義朝の正室で由良御前。義朝が彼女と結婚したのは鳥羽上皇の中宮待賢門院に仕えていた岳父を通じて院へ接近を計ったことや、熱田神宮という東国との交通の要衝を握る意図があったのででしょう。二人の間には頼朝の他、弟の希義や妹も誕生している。そして嫡男の頼朝は十三歳の時、季範の後押しで二条天皇の蔵人(秘書役)に任じられた。

将来を属目されるエリートとなったのです。仁平三年(1153)義朝は下野守に任じられる。鳥羽院の肩入れだったとみられ、摂関家に奉仕していた為義と袂を分かつことにもなった。

義朝は保元の乱(1156年)で後白河天皇や平清盛に与して勝利する。敵方となって捕らわれた為義の斬首を命じられ、人々から「親の首を切った」と非難された。そんな代償を支払って、河内源氏の嫡流につくことができたのです。

しかし三年後の「平治の乱」では清盛に敗れ、尾張国野間（愛知県美浜町）まで逃げのびたものの、長田忠致に裏切られ殺されてしまう。源氏は異議・頼朝による鎌倉幕府の草創まで約30年間の雌伏を強いられた。

頼朝は平氏追討に功績のあった義経を容赦なく殺すなど、弟たちに苛酷だった。しかし母方の熱田大宮司家には優しく、手厚く保護した。そんな交流を裏付ける仏像が愛知県岡崎市の瀧山寺に残っています。

この時代の名仏師、運慶の手になる等身の聖観音立像など三体（国重文）である。像は頼朝の死後に制作され、注文主は季範の孫（頼朝の従兄弟）である僧・寛伝だった。

寛伝は頼朝に重用され、下野（栃木県）の日光山満願寺の座主もつとめた。X線撮影された聖観音の胎内には顎髭や歯らしいものが納められ、頼朝のものと考えられている。 **源義朝：**

平治の乱は河内源氏の嫡流を京都から引き離し東国と直接に結び付ける原因になった。三男頼朝は初陣として戦闘に臨んだが平清盛の参戦で義朝は敗退し頼朝は父義朝とはぐれてしまった。

義朝はわずかな家人郎等達で京都を落ちた。そして義朝は京都から近江に入るあたりで斉藤実盛や佐々木秀義ら有力家人達とも別れ、美濃国の青墓宿（現在の太田市）に辿り着き青墓宿の長者の大炊家に滞在して、そしてその娘とも妾女して子供まで持った。また義朝は遠江の橋宿や池田宿の遊女とも妾女するなど東海道の重要な宿駅に活動の痕跡を残した。そして長男の義平には東山道を、二男の朝長には信濃、甲斐の源氏と合流することを指示し、自分は尾張国野間（愛知県美浜町）まで逃げのびたものの、入浴中に長田忠致（タダムネ）に裏切られ殺されてしまった。その時せめて木刀の一振りがあればと悔やんだ。義朝の墓には木製の太刀が奉納されて居るとの事。

源義経：

義経は義朝の九男として生まれ、父義朝は平治の乱で敗戦し、媒人（バイニン）となった。その時の義経は二才でした。牛若丸と名付けられた。父義朝の敗退で母（常磐）の腕に抱かれて大和国（奈良県）へ逃亡した。その後母の常磐は都に戻り、後に公家の一条長成（ながしげ）と再婚する。

牛若丸は十一才になり、鞍馬寺に預けられ稚児名を庶那王（シャナオウ）となったが、庶那王は僧になる事を拒否して鞍馬を十六歳の時出奔して承治四年（1174）の3月3日の桃の節句の日に鏡の宿に泊まって自らの手で元服を行い源氏のゆかりの義の字と初代経基王ゆかりの字を以て義経と名乗り、奥州藤原秀衡を頼って行った。1180年源氏の頼朝が伊豆で挙兵することを

聞いた義経は兄の元へ行く事を知った秀衡は佐藤継信、忠信の兄弟と数十騎を義経に差し与えた。義経はその騎士達と兄のもとへ馳せ参じ、富士川の戦いで勝利した頼朝と黄瀬河の陣で涙の対面をしました。（1187年藤原秀衡病死）

義経はその後平氏と戦い一ノ谷、壇ノ浦、屋島等で数々の戦勝を讃えられて白河法皇より従五位の下左衛門伊予守に任じられた。しかし平家追討の時に軍監として頼朝に仕えた梶原景時の意見を無視したり、義経が壇ノ浦で捕らえた平宗盛、清宗父子を護送して京を立ち、鎌倉に凱旋しようとした事などで義経に不信感を抱いた頼朝は義経の鎌倉入りを許さず、鎌倉郊外の山田荘越谷の満福寺に義経は留め置かれた。義経は頼朝に対して自分は何の叛意がないことを示す書状を頼朝の側近大江広元に託したが、その書状は頼朝の処へは届かず、その書状は鎌倉の満福寺に保管されて有名です。

頼朝の戦力によって奥州の藤原家も滅びてしまい、義経の館に滅びた平泉の兵に囲まれましたが義経は一切戦うことをせず持仏堂に籠もり正妻の河越重頼の娘と男児、女兒を殺害して後に自害して果てた。享年三十一才であった。

源頼朝：

源頼朝は父義朝、母は藤原季範（すえのり）の娘（由良御前）の三男として久安3年4月8日（異説：1147年5月9日）に誕生した。頼朝は平安時代末期から鎌倉時代初期の武将で政治家でもあり、鎌倉幕府の初代征夷大將軍となった。

1159年平治の乱に13才の初陣として父義朝に従い、戦闘に臨んだが、父義朝は敗戦して一門は官職を剥奪されて京に落ちた。義朝は頼朝ら八騎と東国を目指したが頼朝は途中一行とはぐれ、平頼盛の家人平宗清に捕らえられて処刑として六波羅へ送られ、処罰は死刑が当然視されたが清盛の継母池ノ禅尼の嘆願によって死一等を減ぜられて伊豆の国蛭ヶ小島に流刑となり、また頼朝の弟希義も流刑に処せられました。

伊豆で頼朝は以仁王の令旨を受けて平氏打倒の兵を挙げて鎌倉を本拠として関東を制圧し、弟たちを代官として源氏の義仲や平氏を倒し、また戦功の義経を追放し、諸国に守護と地頭を配して力を強め、奥州の藤原氏を滅ぼして全国を平定しました。

建久三年（1192）に征夷大將軍に任じられた。官位は正二位権大納言右近衛大将征夷大將軍となった。前妻は八重姫、正室は北条政子、側室は亀の前と大進の局、利根の局。建久十年一月十三日（1199年2月9日）に死去す。享年五十三才（満五十一才）没でした。

以上

